

# 福岡市教育委員会賞

## 「税は優しい」

福岡市立香椎第一中学校 3年

小長光 凜

先日、学校で税についての授業がありました。税を通して、国のこと、社会のことを考えていると、税の仕組みというものは、実は温かみのある仕組みなのだと感じるようになりました。

よく部活動や学級のスローガンで使われる「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」という言葉があります。税は、お金を通して、この精神を実現していると気づきました。国や都道府県・市町村が行う公共サービス、私たち国民が税金を納めること、これらは、すべて「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」といえます。

例えば、このように考えることができます。まず「ひとりみんなのために」です。

夏休みに家族で車に乗って出かけました。たくさんの大型トラックが何かを輸送しているところを見ました。私たち家族が簡単に移動できることも嬉しいですが、生活に必要なものが運びやすくなり、道路の発達、私たちの便利な暮らしに役立っていることがわかりました。一人ひとりが納めた税金が、みんなのためになることに使われたのだと考えることができます。

次に「みんなはひとりのために」です。私は今、義務教育の最後の一年を過ごしています。公立学校の児童・生徒一人当たり年間教育費の負担額は、小学生が約八六万円、中学生が約九九万円といわれています（国税庁平成二四年度）。小学校一年生から中学校三年生までの九年間で、おおよそ九〇〇万円を負担していただいたということのようです。これは、子供がいる家庭もそうでない家庭も区別なく、みんなが納めた税金が、私たち教育を受ける一人ひとりのために使われたと考えることができます。

税は、能力に応じてお金を集めるというものです。しかし、「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」という言葉をイメージし、お金の動きを考えてみると、税はみんなに優しい仕組みだと思えてきます。

私は大人になり、自分の力でお金を稼ぐようになり、税金を納めなければならなくなった時には、「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」を思い出して、税のルールを守り、正しく納めたいと思いました。

学校で税についての授業を受けたことで、社会をより身近なものとして考えられるようになりました。

人類の歴史において、今のように多くの人が税を納める形になったのは、まだ最近の話だと聞きました。

「ひとりみんなのために、みんなはひとりのために」という税の考え方は、大切に未来へ伝えなければならないと思います。